2023年10月実績概要（メモ）

（2023.11.22）

生産調整の長期化が続く中、各誘導品の生産は、定修要因や需要構成の差から格差がでる。

1. 生産動向

イ) エチレン 447,500トン

前月比 +3.7% (+15,800トン)
 前年同月比 ▲4.8% (▲22,600トン)

生産増減に係る諸要因	<前月比>	<前年同月比>
日数増減	+ 3.3 %	-
定修要因等	▲ 1.1 %	▲ 2.4 %
能力増減	-	+ 0.4 %
稼働率変動	+ 1.5 %	▲ 2.8 %
生産増減率	+ 3.7 %	▲ 4.8 %

稼働プラントの実質稼働率試算：前月81.5%* → 当月82.6% ← 前年同月84.8%

定修プラント：前月なし → 当月なし ← 前年同月1社1プラント

2023年1～10月累計生産量 4,372.0千トン 前年同期比 ▲2.0%

ロ) 主な石油化学製品

前月比は、日数増加とともに定修規模差や稼働率要因から、LDPE、塩ビ樹脂、塩ビモノマー、EO、EG、AN、BRなどの8品目がプラス。PS、SBR、ベンゼン、トルエン、キシレンなどの9品目はマイナスとなった。

前年比は、稼働率要因等から、LDPE、HDPE、PS、トルエン、キシレンなどの10品目がマイナス。塩ビモノマー、MMAモノマー、SBR、BRなどの7品目はプラスとなった。

2. 樹脂の生産・出荷状況（LDPE、HDPE、PP、PS）

イ) 生産

前月比は、日数の増加や定修規模の縮小からLDPE、PPはプラス。HDPE、PSは定修規模の増加や稼働率要因からマイナスとなった。

前年比は、生産調整の影響もありLDPE、HDPE、PSはマイナス。PPは定修規模の差からプラスとなった。

ロ) 国内出荷

物価上昇の度合いは和らぎつつも消費マインドは足踏みがみられている。国内の生産活動は、輸送機械、電子部品等での増加予測が続くとともに、生産マインドにおいても直近では、改善傾向が見られている。

汎用樹脂の出荷は、前月比は、LDPEは供給量の回復もありプラスとなったが、HDPE、PP、PSはマイナスとなった。

前年比は、4樹脂ともに前年割れとなった。分野別には、フィルム等の包材関係は、未だに前年を下回る状況が続いている。包材関係以外では、当月はLDPEの射出成形分野、HDPEのパイプ分野で増加が見られた。PPは、射出成形分野が7カ月連続して前年を上回っている。PSは、多くの分野がマイナスとなったが、雑貨・産業分野のみは久方ぶりにプラスに転じた。

ハ) 輸 出

域内の供給の潤沢感もあり、引き合いを急ぐ動き見られていない。比較上、前月比では、LDPE、PP、PSはプラス。HDPEのみはマイナスとなった。前年比は、前年の輸出が低調であったこともありLDPE、HDPE、PPはプラス。PSは長らくの間マイナスが続いている。

ニ) 在 庫

在庫量は、前月に対して、LDPE、HDPE、PSで減少、PPのみは僅かに増加した。在庫率(季節調整済)は、HDPE、PPは上昇、PSは前月並み、LDPEは低下した。在庫水準としては、LDPE、HDPEは高め、PPは若干の緩和、PSはほぼ適正水準にある。

	前月対比増減量 (単位:トン)	季節調整済在庫率 (単位:ヶ月)	
		9月末	10月末
LDPE	▲ 17,800	3.5	3.4
HDPE	▲ 7,700	3.4	3.5
P P	+ 1,900	3.0	3.2
P S	▲ 4,200	1.9	1.9

前月からの修正を*で付記

以 上